

早稲田大学 文学部 日本史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問数6題、小問数47問はほぼ例年通り。記述問題が18問、選択問題29問(内訳は正誤16問・正誤組み合わせ1問・語句選択9問、語句組み合わせ2問、年代配列1問)で、昨年度に比べ記述問題が増加し、正誤問題が減少した。2つ選ぶ形式の選択問題は5問に増加。時代別では原始1題・古代1題・中世1題・近世1題・近現代1題・文化史1題(今年度は「近世の書籍・絵画」)。前近代32問・近代15問のため、前近代史に7割近くの比重がかかる。戦後史からの出題は珍しい(4問)。分野別では政治史・文化史に比重がかかる。例年同様、第Ⅰ問は原始時代、第Ⅵ問は文化史。珍しく史料問題が出され(第Ⅲ問)、読解問題が1問あった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	モース	問6:オが正しい。用語集レベルでやや難。問7:アが正解。やや難。「物理学」から消去法で解く。	標準
〔Ⅱ〕	桓武天皇の政治	問1:エが正解。「崇道天皇」とは早良親王のこと。早良親王が廃太子となったあと「後の平城天皇」が皇太子となった。問7:ウが正解。最澄は804年入唐、翌年帰国。空海は804年入唐、806年帰国。	標準
〔Ⅲ〕	北条政子の演説 ＜史料＞	問4:ウが正しい。やや難。Xが難しいので、Y誤文(食用油ではなく灯油)、Zは正文から判断したい。問7:ア・エが適切。イ・ウ…『吾妻鏡』は13世紀末～14世紀初頭頃に成立、『六代勝事記』は後堀河天皇(在位1221～1232年)の時代に著されたとあるので、成立時期は『六代勝事記』の方が早いことが分かる。そのためイ・ウはともに誤文。オ…「後鳥羽上皇の政治が批判されている」が誤り。	標準
〔Ⅳ〕	徳川家斉の治世	問4:解答は「文化」。文化露寇事件は用語集にはあるが難問。問7:ウが誤り。やや難。宇和島藩は正しくは佐賀藩。	標準
〔Ⅴ〕	近現代の雑誌	問3:エが誤り。馬場辰猪には『天賦人權論』の著書がある。問4:ア・オが正しい。やや難。イ…青鞥社は文学者団体、ウ…職業婦人という言葉があるように職業を持った女性が社会的進出をしている、エ…『婦人公論』は改造社ではなく中央公論社。問10:イ・オが誤り。やや難。『のらくろ』は田河水泡、『冒険ダン吉』は島田啓三。	標準
〔Ⅵ〕	近世の書籍・絵画	問1:解答は「唐人屋敷」。出島か唐人屋敷だが漢字4字とあるので唐人屋敷。問6:イが正しい。やや難。アは亜欧堂田善の事績。	標準

〔総合コメント〕

正誤問題が多いのが本学の特徴であるが、今年度は記述問題が増加した。難易度は例年、標準からやや難のレベル。第Ⅰ問(原始時代)と第Ⅵ問(文化史)に難問が散見される。時折、記述問題にレベルの高いものがあり、「改革組合村」「帝国国策遂行要領」「螺鈿」(2017年度)、「金光明最勝王経」「山鉾」(2018年度)、「宗旨人別改帳」「大西洋憲章」「巨勢金岡」(2021度)、「亜欧堂田善」「洛陽」(2022年度)などが出題されている。今年度は史料問題が出されたり、戦後史からの出題があったりと若干傾向に変化はみられるが、難易度にほとんど変化はなく、全体的にみると努力の量が点数に比例する入試といえるだろう。